

福岡市事業系ごみ排出事業者関連調査

平成 29 年 10 月から 11 月にかけて、排出事業者 100 事業所にアンケート調査を行った。

調査結果から、これまで古紙資源化に取り組んでいなかった事業者においては、福岡市リサイクルベースの稼働が古紙資源化のきっかけとなる可能性が高く、今後の周知・啓発の徹底が重要と考えられる。

一方、既に何らかの古紙資源化に取り組んでいた事業者においては、さらなる資源化への取組みには消極的であり、一層の資源化には古紙分別を制度化するといった仕組みづくりが必要と考えられる。

1. 排出事業者への聞き取り調査 (H29.10~11 実施)

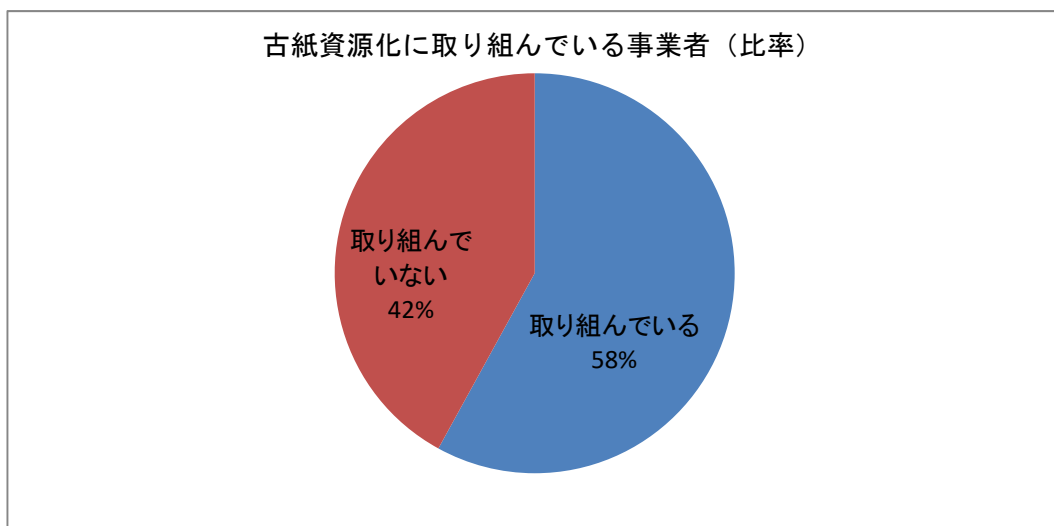
(市内の事務所 (37), 小売業 (13), 飲食店 (8), 卸売業 (5), 社会福祉施設 (10), 医療関連施設 (8), 学校・教育関連施設 (11), 宿泊施設 (8) の計 100 事業所を対象に実施)

(1) 聞き取り結果抜粋

Q 1 貴事業所は、古紙資源化に既に取り組んでいますか？

回答内容	回答数
取り組んでいる	58
取り組んでいない	42

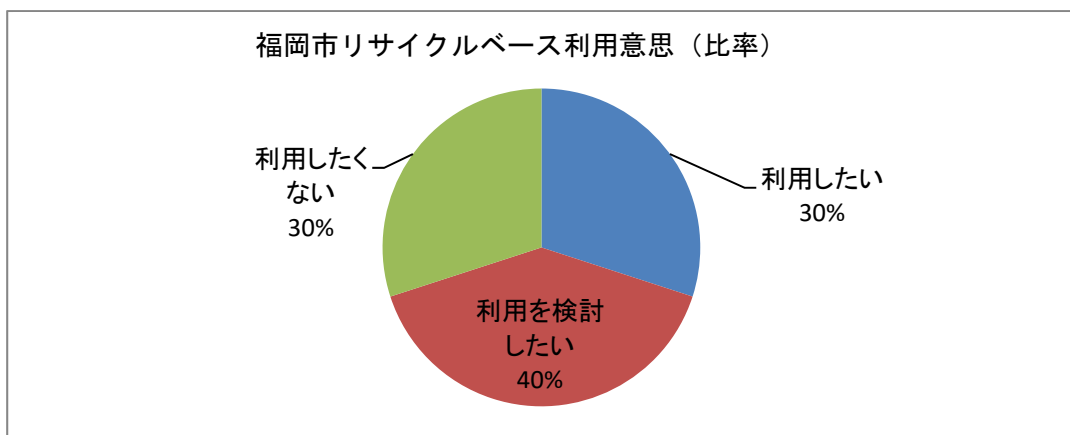
・事業所の約半数は、何らかの古紙資源化に取り組んでいる。(58/100 事業所)



Q 2 簡易な分別で古紙を資源化できる福岡市リサイクルベースが平成 30 年度にオープンします。古紙分別に取り組んだ場合、ごみ処理料金が現在より若干安くなりますが、この新たな古紙資源化施設を利用したいと思いますか？

回答内容	回答数
利用したい	30
詳細説明を聞いて利用を検討したい	40
利用したいとは思わない	30

- ・古紙資源化を行っていない事業所においては、福岡市リサイクルベースを利用したい、もしくは利用の検討をしたいと意思を示す傾向がある。(33/42 事業所)
- ・利用したいとは思わない事業所においては、既に古紙資源化に取り組んでおり、現在ごみとして処分しているシュレッダー・雑紙等まで分別・資源化したいとは思わないといった意見があった。(10/30 事業所)



Q 3 詳細説明を聞いて福岡市リサイクルベース利用を判断する材料は？

回答内容	回答数
料金や分別の手間の状況	23
本社 (上司) 等の意向	17

- ・福岡市リサイクルベースを利用する場合の判断材料は、処理料金と分別の手間のバランスになるとの意見が見られた (23/40 事業所)

